第一看護学科　　成人看護学

目的　　成人期の特性を理解した上で、成人期にある人の健康維持増進および健康障害時の看護を実践できる能力を養う。

目標　１　成人期にある対象の特性を総合的に理解できる。

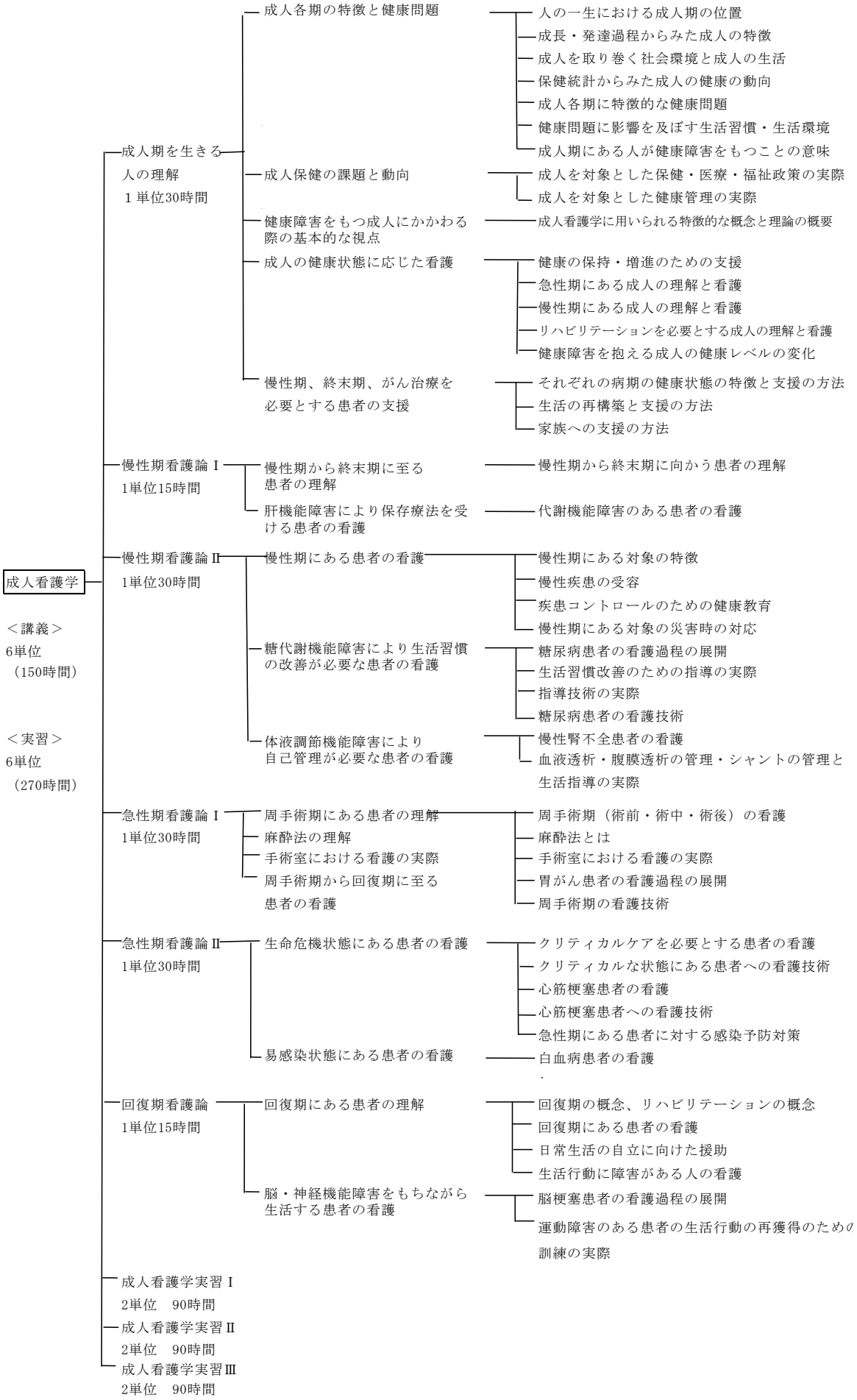
２　成人期にある人の健康に影響を及ぼす因子を理解し、健康を維持増進するための看護の役割について理解できる。

３　成人期に起こりやすい疾病、障害を理解し、健康の段階に応じた看護が理解できる。

４　健康障害をもつ対象および家族に対して、対象の個別性に応じた看護を実践できる能力を養う。

５　講義で学んだ看護の理論や方法を臨地場面において体験し、成人に必要な看護を実践できる能力を養う。

成人看護学　構成図


成人看護学
＜講義＞
6単位
（150時間）
＜実習＞
6単位
（270時間）
成人期を生きる人の理解
1単位30時間
成人各期の特徴と健康問題
人の一生における成人期の位置
成長・発達過程からみた成人の特徴
成人を取り巻く社会環境と成人の生活
保健統計からみた成人の健康の動向
成人各期に特徴的な健康問題
健康問題に影響を及ぼす生活習慣・生活環境
成人期にある人が健康障害をもつことの意味
成人保健の課題と動向
成人を対象とした保健・医療・福祉政策の実際
成人を対象とした健康管理の実際
健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点
成人看護学に用いられる特徴的な概念と理論の概要
成人の健康状態に応じた看護
健康の保持・増進のための支援
急性期にある成人の理解と看護
慢性期にある成人の理解と看護
リハビリテーションを必要とする成人の理解と看護
健康障害を抱える成人の健康レベルの変化
慢性期、終末期、がん治療を必要とする患者の支援
それぞれの病期の健康状態の特徴と支援の方法
生活の再構築と支援の方法
家族への支援の方法
慢性期看護論Ⅰ
1単位15時間
慢性期から終末期に至る患者の理解
慢性期から終末期に向かう患者の理解
肝機能障害により保存療法を受ける患者の看護
代謝機能障害のある患者の看護
慢性期看護論Ⅱ
1単位30時間
慢性期にある患者の看護
慢性期にある対象の特徴
慢性疾患の受容
疾患コントロールのための健康教育
慢性期にある対象の災害時の対応
糖代謝機能障害により生活習慣の改善が必要な患者の看護
糖尿病患者の看護過程の展開
生活習慣改善のための指導の実際
指導技術の実際
糖尿病患者の看護技術
体液調節機能障害により自己管理が必要な患者の看護
慢性腎不全患者の看護
血液透析・腹膜透析の管理・シャントの管理と生活指導の実際
急性期看護論Ⅰ
1単位30時間
周手術期にある患者の理解
周手術期（術前・術中・術後）の看護
麻酔法の理解
麻酔法とは
手術室における看護の実際
手術室における看護の実際
周手術期から回復期に至る患者の看護
胃がん患者の看護過程の展開
周手術期の看護技術
急性期看護論Ⅱ
1単位30時間
生命危機状態にある患者の看護
クリティカルケアを必要とする患者の看護
クリティカルな状態にある患者への看護技術
心筋梗塞患者の看護
心筋梗塞患者への看護技術
急性期にある患者に対する感染予防対策
易感染状態にある患者の看護
白血病患者の看護
回復期看護論
1単位15時間
回復期にある患者の理解
回復期の概念、リハビリテーションの概念
回復期にある患者の看護
日常生活の自立に向けた援助
生活行動に障害がある人の看護
脳・神経機能障害をもちながら生活する患者の看護
脳梗塞患者の看護過程の展開
運動障害のある患者の生活行動の再獲得のための訓練の実際
成人看護学実習Ⅰ
2単位　90時間
成人看護学実習Ⅱ
2単位　90時間
成人看護学実習Ⅲ
2単位　90時間

授業科目	成人期を生きる人の理解	担当教員	専任教員☆ ①河合　あけみ 外部講師☆ ②堀部　雅子	単位数	1	時期	1年次 7月～12月
				時間数	30		

目的と目標	ライフサイクルにおける成人期の位置づけを明確にし、成人期の健康保持・増進、疾病予防について理解を深め、健康を支援していくための援助について学ぶ。 1 成人期の発達段階と特徴について理解する。 2 成人各期における健康問題を理解する。 3 地域における健康増進への取り組み、保健活動の実際を理解する。 4 成人看護学に用いられる特徴的な概念と理論の概要がわかる。 5 成人期の健康状態の変化と、それぞれの病期に応じた援助の基本的な考え方がわかる。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1 2 3 4	成人各期の特徴と健康問題	（1）人の一生における成人期の位置 （2）成長・発達過程からみた成人の特徴 ①　青年期 ②　壮年期 ③　向老期 （3）成人を取り巻く社会環境と成人の生活 ①　働くことと生活 ②　家族との関係 ③　多様なライフスタイル （4）保健統計からみた成人の健康の動向 ①　わが国における人口構造の概要 ②　成人保健に関係する人口構成 ③　成人期の死亡・死因の状況 ④　受療状況 （5）成人各期に特徴的な健康問題 ①　青年期の健康問題 ②　壮年期の健康問題 ③　向老期の健康問題 （6）健康問題に影響を及ぼす生活習慣・生活環境 ①　飲酒 ②　喫煙 ③　食生活の乱れ ④　運動不足 ⑤　ストレス ⑥　睡眠時間・労働時間 （7）成人期にある人が健康障害をもつことの意味	講義 演習	専任教員 （　　）
5 6	成人保健の課題と動向	（1）成人を対象とした保健・医療・福祉政策の実際 ①　健康づくり政策 ②　生活習慣病対策 ③　疾患対策 ④　労働者の健康対策 ⑤　自殺対策 ⑥　障害者を支える制度と対策 （2）成人を対象とした健康管理の実際 ①　地域における成人期の健康問題 地域における健康増進への取り組み ②　保健活動の実際	講義	外部講師 (堀部　雅子)
回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員

7 8 9 10	健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点	（1）成人看護学に用いられる特徴的な概念と理論の概要 ① ケアリング ② セルフケア ③ 適応理論 ④ セルフエフィカシー ⑤ エンパワーメント ⑥ アンドラゴジー成人教育理論 ⑦ ストレス理論・危機理論	演習 講義	専任教員 （　　）
11 12 13	成人の健康状態に応じた看護	（1）健康の保持・増進のための支援 （2）急性期にある成人の理解と看護 （3）慢性期にある成人の理解と看護 （4）リハビリテーションを必要とする成人の理解と看護 （5）健康障害を抱える成人の健康レベルの変化	講義 演習	
14 15	慢性期、終末期、がん治療を必要とする患者の支援 (3 時間)	（1）それぞれの病期の健康状態の特徴と支援の方法 （2）生活の再構築と支援の方法 （3）家族への支援の方法		
	試験（1 時間）	（1）筆記試験	試験	専任教員 （　　）

評価方法	筆記試験　100 点　（1～4 回、6～15 回）
教科書 参考文献	新体系看護学全書　成人看護学①　成人看護学概論　成人保健（メヂカルフレンド社） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する。 ②保健師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	慢性期看護論Ⅰ	担当教員	専任教員☆ 濱崎　直子	単位数	1	時期	1年次 2月～3月
				時間数	１５		

目的と目標	慢性期にある成人の特徴を理解し、その特性を踏まえた看護が理解できる。 1 慢性期の対象の特徴が理解できる。 2 慢性期から終末期に至る対象の変化を身体、精神、社会的側面から考えることができる。 3 慢性期から終末期における対象の変化を把握し、その状況に合った援助が判断できる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	慢性期から終末期に至る患者の看護	（1）慢性期から終末期に向かう患者の理解 ①　慢性期にある患者の理解と看護 ②　慢性期の健康レベルの変化、病みの軌跡の理解	講義	専任教員 （　　）
2 3 4 5 6 7	肝機能障害により保存療法を受ける患者の看護	（1）代謝機能障害のある患者の看護 ①　肝疾患の基礎知識 ②　肝炎から肝硬変、肝がんに至った患者の理解 重症化予防のための日常生活への援助	講義 演習	
8	試験（1時間）	（1）筆記試験	試験	

評価方法	筆記試験　100 点
教科書 参考文献	新体系看護学全書　経過別成人看護学③　慢性期看護（メヂカルフレンド社） 系看　専門　消化器　成人看護学⑤（医学書院） 系看　専門基礎　病態生理学　疾病の成りたちと回復の促進②（医学書院） 新版　看護に役立つ検査事典（照林社） 疾患別看護過程の展開（学研） 系看　別巻　臨床検査（医学書院） 治療薬マニュアル　（医学書院）
事前準備や受講要件等	講義前に肝臓の解剖生理、肝炎、肝硬変、肝がんについての病態、治療、看護について学習
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する。

授業科目	慢性期看護論Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ①宮坂　恵子 外部講師☆ ②船戸　美加子 ③長谷川　雅恵	単位数	1	時期	2年次 6月～10月
				時間数	３０		

目的と目標	慢性期にある成人の健康上の問題を理解し、疾病の受容過程への援助および疾病コントロールのための健康教育が理解できる。 1 慢性疾患患者の疾病の受容過程が理解できる。 2 疾病コントロールのための健康教育の必要性と行動変容のためのアプローチの方法が理解できる。 3 慢性疾患に罹患した対象の状態を把握し、必要な援助が判断できる。 4 慢性疾患に罹患した対象の生活変容のための指導方法がわかる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	慢性期にある患者の看護	（1）慢性期にある対象の特徴 （2）慢性疾患の受容 （3）疾病コントロールのための健康教育 （4）慢性期にある対象の災害時の対応	講義	専任教員 （　　）
2 3 4 5 6 7 8	糖代謝機能障害により生活習慣の改善が必要な患者の看護	（1）糖尿病患者の看護過程の展開（13時間） ①　糖尿病の基礎知識 ②　血糖コントロールのための看護	講義 演習	専任教員 （　　）
9		（2）生活習慣改善のための指導の実際（2時間）	講義	外部講師 (船戸美加子)
10		（3）指導技術の実際（ロールプレイング）（3時間）	演習	専任教員 （　　）
11		（4）糖尿病患者の看護技術（2時間） ①　インスリン注射の実際 ②　簡易血糖測定	演習	専任教員 （　　）
12 13 14 15	体液調節機能障害により自己管理が必要な患者の看護 （7時間）	（1）慢性腎不全患者の看護（5時間） ①　慢性腎不全の基礎知識 ②　慢性腎不全の病期に応じた生活指導 （2）血液透析・腹膜透析の管理・シャントの管理と生活指導の実際（2時間）	講義 講義	専任教員 （　　） 外部講師 (長谷川雅恵)
	試験（1時間）	（1）筆記試験	試験	専任教員 （　　）

評価方法	試験　100点 糖尿病患者の看護過程の展開　事例展開　50点、筆記試験　30点　（1～8回、10・11回） 慢性腎不全患者の看護　　筆記試験　20点　（12～14回） ＊再試験は筆記試験100点で評価する。
教科書 参考文献	新体系看護学全書　経過別成人看護学③　慢性期看護（メヂカルフレンド社） 系看　専門　内分泌・代謝　成人看護学⑥　系看　専門　腎・泌尿器　成人看護学⑧（医学書院） 系看　専門基礎　病態生理学　疾病の成りたちと回復の促進②（医学書院） 疾患別看護過程の展開（学研）　NANDA－Ⅰ看護診断　定義と分類（医学書院） 看護に役立つ検査事典（照林社）　系看　別巻　臨床検査　（医学書院） 治療薬マニュアル　（医学書院）　完全版　ビジュアル臨床看護技術ガイド（ 照林社）
事前準備や受講要件等	「糖尿病患者の看護」について 慢性疾患患者の特徴、看護について成人看護学概論の内容を復習する。講義前にインスリンの働き、糖尿病の疾患、治療法、看護について学習（具体的な学習内容は提示） 「慢性腎不全患者の看護」について 講義前に腎臓の解剖生理、腎不全の病態、治療、看護について学習
☆担当教員の実務経験	①②③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する。

授業科目	急性期看護論Ⅰ	担当教員	専任教員☆ ①河合　あけみ 外部講師☆ ②山本　拓巳 ③加納　貴英	単位数	1	時期	2年次 4月～5月
				時間数	３０		

目的と目標	周手術期にある成人の健康上の問題を把握し、その特性を踏まえた看護が理解できる。 1 手術をうける成人の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2 手術侵襲、麻酔侵襲から対象が回復する過程で抱える問題が明確にできる。 3 周手術期にある対象の状態を把握し、必要な援助が判断できる。 4 周手術期にある対象の回復を促進するための援助がわかる。 5 手術における機能障害と生活の制限への援助について考えることができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1 2 3 4	周手術期にある患者の理解	（1）周手術期（術前・術中・術後）の看護 ①　手術前の患者の理解と看護 ②　手術中の患者の身体的・精神的影響と看護 ③　手術後の患者の身体面の変化と看護	講義	専任教員 （　　）
5	麻酔法の理解	（1）麻酔法とは	講義	外部講師 (山本 拓巳)
6	手術室における看護の実際	（1）手術室における看護の実際	講義	外部講師 (加納　貴英)
7 8 9 10 11 12 13 14 15	周手術期から回復期に至る患者の看護（17 時間）	（1）胃がん患者の看護過程の展開 ①　胃がんの基礎知識 ②　胃切除術前の看護 ③　胃切除術後の看護 （2）周手術期の看護技術 ①　術前オリエンテーション ②　術前訓練 ③　術後のベッドの作りかた ④　術後管理（観察、ドレーン管理） ⑤　離床、創傷処置、創傷観察 ⑥　点滴静脈内注射 ⑦　輸液ポンプ、シリンジポンプの管理	講義 演習 演習	専任教員 （　　） 専任教員 （　　）
	試験（1時間）	（1）筆記試験	試験	専任教員 （　　）

評価方法	筆記試験　100 点（1～4回、7～15 回）
教科書 参考文献	系看　別巻　臨床外科看護総論（医学書院）　系看　専門　消化器　成人看護学⑤（医学書院） 新体系看護学全書　経過別成人看護学　周術期看護（メヂカルフレンド社） 系看　別巻　臨床外科看護各論（医学書院）　　完全版　ビジュアル臨床看護技術ガイド」（照林社） 疾患別看護過程の展開　（学研） 新版　看護に役立つ検査事典　（照林社） 系看　別巻　臨床検査　（医学書院）
事前準備や受講要件等	講義前に、解剖生理学「呼吸」「循環」の内容を振り返る。 講義前に、胃の解剖生理、胃がんの病態、治療、看護について学習する。
☆担当教員の実務経験	①③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する。 ②医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	急性期看護論Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ①河合　あけみ 外部講師☆ ③長谷川　康代 ④蟹　恵利加 ⑤救急救命士	単位数	1	時期	2年次 5月～7月
				時間数	３０		

目的と目標

クリティカルな状態にある成人の健康上の問題を把握し、その特性を踏まえた看護が理解できる。
1 生命危機状態にある対象の身体・精神・社会的特徴が理解できる。
2 生命維持、苦痛の緩和のための看護援助を考えることができる。
3 生命危機状態に陥った対象の状態を把握し、必要な援助が判断できる。
4 生命危機状態にある対象を理解するために必要な観察方法が習得できる。
5 感染予防の知識を身につけ、医療従事者の安全を守る方法について理解できる。
6 感染予防を必要とする患者の看護が理解できる。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1	生命危機状態にある患者の看護	（1）クリティカルケアを必要とする患者の看護	講義	専任教員
		①　クリティカルケアの看護の概念（2時間）		（　　）
2	(25時間)	②　クリティカルな状態にある患者の看護の実際	講義	外部講師
3		＊ICU 見学　（4時間）		(長谷川康代)
4		（2）クリティカルな状態にある患者への看護技術	臨地講義	外部講師
5		①　救命処置の実際（3時間）	(消防署)	(蟹恵利加)
6		（3）心筋梗塞患者の看護（１０時間）	講義	専任教員
7		①　心筋梗塞の基礎知識		（　　）
8		②　心筋梗塞でクリティカルな状態にある患者の		
9		看護		
10				
11		（4）心筋梗塞患者への看護技術（2時間）	演習	
		①　12 誘導の装着		
		②　観察の実際		
12		（5）急性期にある患者に対する感染予防対策	講義	外部講師
13		（4時間）		（　　）
		①　侵襲的処置による感染の可能性		
		②　感染予防対策の実際		
		ア　病棟管理（隔離、消毒、汚物処理、検体の取扱など）		
		イ　患者・家族への指導と精神的援助		
14	易感染状態にある患者の看護	（1）白血病患者の看護	講義	専任教員
15	（4時間）	①　白血病の基礎知識		（　　）
		②　化学療法における患者の身体面の変化		
		③　化学療法における患者の心理・社会的変化		
	試験（1時間）	（1）筆記試験	試験	専任教員 （　　）

評価方法	筆記試験　　100 点 生命危機状態にある患者の看護　　50 点　（1、6～11 回） 急性期にある患者に対する感染予防対策　20 点　（12・13 回） 易感染状態にある患者の看護　　30 点　（14・15 回）
教科書 参考文献	新体系看護学全書　経過別成人看護学　急性期看護：クリティカルケア（メヂカルフレンド社）、 系看　専門基礎　病態生理学　疾病の成りたちと回復の促進②（医学書院） 系看　専門　循環器　成人看護学③（医学書院）、系看　別巻　　臨床検査　（医学書院） 疾患別看護過程の展開（学研）、　治療薬マニュアル（医学書院） 新版　看護に役立つ検査事典（照林社）、　完全版　ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社） 系看　別巻　臨床外科看護総論（医学書院） 系看　専門　血液・造血器　成人看護学④（医学書院）、 系看　専門　アレルギー　膠原病　感染症　成人看護学⑪（医学書院）

事前準備や受講要件等	「生命危機状態にある患者の看護」について 心臓の解剖生理、心筋梗塞の疾患理解、治療法、看護について学習。 「感染症患者の看護」について 血液の解剖生理、白血病の病態、治療法、看護について学習。
☆担当教員の実務経験	①～④看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する。 ⑤救急救命士として消防署に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	回復期看護論	担当教員	専任教員☆ ①河合　あけみ 外部講師☆ ②土田　学	単位数	1	時期	2年次 9月～10月
				時間数	15		

目的と目標	回復期にある成人の特徴を理解し、対象の状態にあった看護が理解できる。 1 回復期の対象の身体的な特徴を理解し、日常生活拡大への援助方法が理解できる。 2 回復期の対象の精神的特徴を理解し、障害受容に向けた援助方法がわかる。 3 回復期の対象の状態を把握し、必要な援助が判断できる。 4 対象の生活の再構築のための看護師の介入方法について理解できる。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1	回復期にある患者の理解	（1）回復期の概念、リハビリテーションの概念 （2）回復期にある患者の特徴 （3）日常生活の自立に向けた援助 （4）生活行動に障害がある人の理解	講義	専任教員 （　　）
2 3 4	脳･神経機能障害を持ちながら生活する患者の看護	（1）脳梗塞患者の看護過程の展開 ①　脳梗塞の基礎知識 ②　脳梗塞患者の回復期の看護 運動機能障害、意識障害、嚥下障害が生じた患者の対応	講義 演習	専任教員 （　　）
5		（2）運動障害のある患者の生活行動の再獲得のための訓練の実際 ①　関節可動域訓練 ②　廃用症候群予防の自動・他動運動	演習	外部講師 （土田　学）
6 7		③麻痺のある患者の日常生活援助の実際	講義 演習	専任教員 （　　）
8	試験（1時間）	（1）筆記試験	試験	専任教員 （　　）

評価方法	筆記試験　100点　（1～4回、6・7回）
教科書 参考文献	新体系看護学全書　別巻　リハビリテーション看護（メヂカルフレンド社） 系看　専門　脳・神経　成人看護学⑦　（医学書院） 系看　専門基礎　病態生理学　疾病の成りたちと回復の促進②（医学書院） 疾患別看護過程の展開　（学研） 新版　看護に役立つ検査事典　（照林社）、系看　別巻　臨床検査　（医学書院） 治療薬マニュアル（医学書院）、完全版　ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）
事前準備や受講要件等	講義前に脳の解剖生理、脳梗塞の疾患、治療、看護 運動障害、意識障害、嚥下障害のある患者の看護について学習する。
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する。 ②理学療法士として医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する。